

夢湧く夢に夢中

第14号

令和7年12月23日 文責：大谷

『湧く湧く』した一年に感謝

令和七年の今年の漢字は「熊」だった。例年になく東日本を中心に各地で多発した熊による被害を象徴した一文字だったのだろうが、被害に見舞われた方々の心中を察すると心が痛む。熊たちにとっても、ほんとうは豊かな山で静かに過ごしたいだけだっただろうに、まさか自らの呼び名がその年の世相を象徴する一文字になろうとは、きつと本意ではなからう。一日も早く双方にとって穏やかな日常が戻ることを願わずにはいられない。

ところで、皆さんにとっての今年の漢字とは何だったでしょう。いろいろなことにチャレンジした人であれば「挑」であつたり、楽しい学校生活を送れたという人は「楽」を挙げたりするかもしれない。そこで、わたしも考えた。令和七年という年はわたし自身にとって非常に大きな出来事があつたため、時には自分を見失いそうになることもあつたが、今は実に穏やかな気持ちでいられることに気づく。それもこれも、南阿蘇中学校で生徒の皆さんをはじめ先生方そして保護者や地域の皆様に支えられてきたからに他ならず、感謝の気持ちでいっぱいだからだ。改めて南阿蘇中学校のひとりとして、皆さんとともに過ごさせていただいたことに心からお礼を申し上げたい。ありがとうございます。

こうして感謝と平穏な気持ちに満たされながら、さてわたし自身にとって今年を象徴する漢字一文字とは何か思案した。その結果思い浮かんだのは「湧」だった。水が湧く。温泉が湧くの「湧く」である。南阿蘇村では「水の湧

く里」として名高いことから馴染みの漢字であり、本校の学校教育目標にも引用させていただいている漢字の一つでもある。では、なぜこの漢字を挙げたのか。それには二つの理由がある。

一つ目はあつまりん祭での生徒の皆さんの活躍ぶりに「頼もしさ」を感じたからである。今年から日頃の学習の成果を発表するその延長線上に地域への展開や連携さらには未来への創造を目標に掲げ、新しい試みに挑んだ年だった。多くの関係者の皆様にご支援いただきながら着々と準備を進める一方で不安も多々あつたが、当日はいずれも盛況で、特に生徒が主体的に活動に取り組む姿は、日常とはまたひと味違う実に頼もしいものだった。この姿に未来の南阿蘇村を託せるといふ思いが湧いたのはきつとわたしだけではいはずだと確信したので、まず理由の一つ目に挙げさせていただいた。

そして二つ目は、十一月の人権学習の研究授業やつい先日開催したばかりの「熊本の学び」プロジェクト校公開授業等を通じて見せてくれた生徒の「学びに向かう真剣な姿」に、日々の小さな積み重ねが一人ひとりの夢の実現に間違いなくつながっていると確信したからだ。大きな夢を実現する唯一の近道は、小さな夢の積み重ねしかない。イチロー氏（元野球選手）の言葉をもとにこう言い換えると、その日に見せた学びに向かう姿は、その日だけのものではないことは言うまでもなく、「すでに夢を叶えることに夢中だな」と思えた瞬間だったからだ。だから、南阿蘇中の生徒らが、これからどんな夢を叶えるか、大きな期待感が沸々と湧き出したので、二つ目の理由とした。

かつてわたしたち大人が「何か夢を持って」と諭し「学ばせていた」時代はとうに過ぎ去り、生徒一人ひとりの夢の実現のために、どのようにお手伝いすればよいか考えなければならぬ令和八年となりそうだ。このような時代の大きな変化の中で、生徒らが自らの夢に「わくわく」しているのに、大人が「わくわく」しないわけにはいかない。さあ「湧（わ）く湧（わ）く」の「湧」を握りしめて行こう、いざその先へ。

■2学期そして令和7年が幕を閉じ、令和8年という新しい年を迎えようとしています。一年間、保護者の皆様には大変お世話になりました。職員一同、心より御礼申し上げます。来る新年も職員一丸となって夢を叶えることに夢中になる生徒とともに頑張る所存です。来年もどうぞよろしくお願い申し上げます。どうかよいお年をお迎えください。